

平成 10 年（1998 年）の日本の主な火山活動

噴火が確認された火山は雌阿寒岳、北海道駒ヶ岳、桜島、薩摩硫黄島の 4 山であった。このうち雌阿寒岳は、約 2 年ぶり、北海道駒ヶ岳は約 2 年 7 ヶ月ぶりの噴火であった。桜島、薩摩硫黄島は、たびたび噴火した。そのほか、岩手山では、活発な地震活動が続いた。

十勝岳

62 火口群で温度の上昇、噴気の再開が観測されるなど活動の活発化が認められた。

以下に 62-2 火口の主な活動を記載する。

6 月 24 日：噴気活動活発化、噴気温度 414 。

9 月 29 日：火口底から小規模な熱泥水の噴出を確認。噴気温度 456 。

10 月 9 日：超高感度カメラにより火口周辺が夜間明るく見える現象が観測され、11 月下旬まで続いた。この現象は、火口内の硫黄や火山ガスの燃焼によるものと推定される。

10 月 12 日：黒灰色の有色噴煙を 2 回にわたって噴出。

10 月 13 日：熱泥水停止を確認。噴気温度 460 。

震動観測では 4 月 17 日に空振を伴う地震が観測され、発生源は 62 火口群と推定されたが、火口周辺に異常は認められなかった。その後、6 月中旬から 7 月にかけてと 11 月中旬から 12 月に火山性地震が増加し、火山性微動も時々観測された。

雌阿寒岳

11 月 9 日 14 時 42 分頃、ポンマチネシリ 96-1 火口から約 2 年ぶりに噴火した。噴火直後の噴煙は雲のため不明であったが、10 日朝の噴煙高度は 600m、その後は高いときで 600~700m、通常は 200~400m で推移した。噴火に伴う火山性微動は 14 時 41 分から約 4 分間観測された。地震は、噴火後 1 日あたり 1~2 回で推移し、噴火前と同様少ない状態が続いた。

降灰は火口東側に分布し、火口から約 15km の範囲で微量の火山灰を確認した。また、総噴出量は前回（平成 8 年 11 月 21 日の噴火の総噴出量は約 1 万 2 千トンと見積もられている）より少ない約千トンと見積もられた。噴火は水蒸気爆発と見られる。

樽前山

たびたび地震が群発した、特に 4 月 30 日から 5 月 1 日にかけての群発は最も活発で、5 月 1 日の地震回数は 66 回に達した。日回数が 60 回を超えたのは 1981 年 2 月 27 日（67 回）以来のことである。噴煙など表面現象の異常は認められなかった。

北海道駒ヶ岳

10 月 25 日 09 時 12 分頃、昭和 4 年火口内の 96 年主火口から約 2 年 7 か月ぶりに噴火した。噴火直後の噴煙は火口上 1200m に達したが、26 日以降は 300m 以下で推移した。噴火に伴う火山性微動は 09 時 12 分から約 6 分間観測され、地震は噴火当日に 7 回観測されたがその後ほぼ通常のレベルに減少した。

降灰は火口東側に分布し、総噴出量は前回（1996 年 3 月 5 日の噴火の総噴出量は約 12 万トンと見積もられている）より少ない約数千トンと見積もられた。噴火は水蒸気爆発と見られる。

岩手山

岩手山では、1995 年 9 月から火山性微動と火山性地震の発生が始まったが、今年 1 月頃まで地震回数は月数回程度で推移した。しかし、2 月頃から岩手山西側の浅部を震源とする地震回数が徐々に増加し、東北大学と国土地理院の GPS 観測により岩手山周辺の地殻が南北方向に伸張する変動が観測され始めた。3 月に入り、東北大学の地殻変動観測で顕著な変化が観測され、19 日には日地震回数 90 回と急増した。4 月 29 日には初めて有感となる地震を観測するなど地震活動が活発化し、日地震回数は 285 回と急増した。また東北大学の地殻変動観測にも大きな変化が認められた。この日以降、地震回数はそれ以前と比較してさらに増加し、しばしば有感地震も観測された。これら浅部の地震活動とは別に、モホ面付近で発生する地震回数が 4 月末以降増加し、5 月には回数が 30 回を越えて今年の最多発生回数になるなどその後も継続して観測された。

6 月後半から 7 月上旬にかけて岩手山西側の火山性地震回数はさらに増加して 100 回前後で推移し、顕著な火山性微動や低周波地震の発生が見られるようになった。7 月 10 日には振幅の大きな火山性微動が観測されたが、表面現象に変化は認められなかった。7 月中旬以降、地震回数は徐々に減少した。

9 月 3 日岩手山の南西約 10km で M（マグニチュード）6.1 の逆断層型の地震が発生した。この地震による火山活動

の顕著な変化は認められなかった。山頂に近い鬼ヶ城付近では浅い地震がやや増加した。その後も地殻変動は部分的には鈍化の傾向を示しながらも継続した。10 月以降火山性地震は日回数 10 回前後で推移し、火山性微動、モホ面付近の地震も継続して発生した。

吾妻山

3 月 26 日に継続時間が約 7 分の振幅のやや大きな火山性微動を観測した。

安達太良山

1996 年から地熱、噴気の活動の活発化が認められるようになった沼ノ平で、引き続き、泥の噴出、噴気、地熱地帯の拡大を観測した。

新潟焼山

2 月中旬から下旬にかけて、地震発生回数はやや多い状態が続いたが、その後減少した。

富士山

たびたび低周波地震を観測した。

伊豆東部火山群

4 月 20 日から 6 月はじめまで川奈崎沖で群発地震活動があった。この活動に伴い、東伊豆の体積歪計に縮みの変化、GPS 観測では伊東市を中心とした地域に最大 8 cm 程度の伸び、大崎の傾斜計には南東下がりの変化がそれぞれ観測された。最大地震は 5 月 3 日に発生した M5.7 で、日地震回数の最多は 4 月 22 日の 1,687 回であった。

伊豆鳥島

山階鳥類研究所によると、平成 10 年 11 月 8 日に伊豆鳥島に上陸した際、山頂部外輪火口に直径約 30m の陥没ができていたのが確認された。この現象は本年 2 月に上陸した際には見られなかった。

噴火浅根

5 月 21 日に海上自衛隊の航空機により、緑色の変色域が観測された。

福徳岡ノ場

海上保安庁及び海上自衛隊の航空機により、たびたび変色水域が観測された。

雲仙岳

12 月 14 日に橘湾を震源とする M3.1 の地震があり小浜町雲仙で震度 2 を観測した。また、傾斜変動を伴った火山性微動は、1 月と 11 月にそれぞれ 1 回ずつ観測された。

阿蘇山

阿蘇中岳第一火口では、全面湯だまりの状態が続いた。9 月 27 日には南側火口壁（湯だまり水面上数 m）から連続的に、高い時で 20m くらいまで土砂を噴出した（土砂噴出は 1997 年 11 月 24 日以来）。

霧島山

10 月 10 日～11 日にかけて低周波地震が 11 回発生した。また、10 月 20 日～21 日にかけても 22 回の地震が発生した。

桜島

年間を通じて噴火（爆発）を繰り返し、噴火回数は 178 回、爆発回数は 103 回であった。火山性地震の群発が 5 月 19 日に発生し、その後 2 週間にわたりやや活発な噴火（爆発）を繰り返した。

薩摩硫黄島

4 月下旬と 5 月上旬に島内で降灰があり、5 月上旬の現地調査では硫黄岳火口周辺で火山灰の堆積が確認された。また 7 月下旬には薩摩硫黄島東方約 10km にある竹島で降灰があった。

島内に設置している地震計では 4 月から無感の火山性地震が増え始め、7 月から 8 月にかけて地震回数は減少したものの 9 月以降再び増加し、1 日あたり 60 回～100 回と多い状態が続いた。

諏訪之瀬島

10 月 23 日と 24 日に諏訪之瀬島付近で M2.6 と M2.5 の地震が発生し、京都大学によると島内の一部では有感であった。

図 平成 10 年（1998 年）の日本の火山活動分布図



表 1 平成 10 年（1998 年）の月別火山活動状況

火 山 名	観測データに変化のあった月											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
雌阿寒岳												
十勝岳												
樽前山												
北海道駒ヶ岳												
岩手山												
吾妻山												
安達太良山												
新潟焼山												
富士山												
伊豆東部火山群												
伊豆鳥島												
噴火浅根												
福德岡ノ場												
阿蘇山												
雲仙岳												
霧島山												
桜島												
薩摩硫黄島												
諏訪之瀬島												

表 2 平成 10 年（1998 年）の火山情報の月別発表状況（定期火山情報を除く）

火 山 名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年計
十勝岳	臨時観測													0
	観測										2			2
雌阿寒岳	臨時観測											2		2
	観測											11		11
北海道駒ヶ岳	臨時観測										1			1
	観測										9			9
岩手山	臨時観測				1		1	1		1	1			5
	観測			3	5	8	9	19	10	10	5	4	4	77
那須岳	臨時観測								1					0
	観測													1
桜島	臨時観測					1								1
	観測					1								1
九重山	臨時観測													0
	観測	5	4											9
薩摩硫黄島	臨時観測													0
	観測					2	1	2		1	1	1	1	9

平成 10 年（1998 年）の日本の火山災害

火山災害はなかった。